【国際委員会配布資料】

2013 年 12 月 18 日
国際グループ

◆「第 20 回 ITS 世界会議東京 2013」概要報告

会期	:2013 年 10 月 14 日(月)-18 日(金)
会議テーマ	:"Open ITS to the Next"
公式ウェブサイト	:http://www.itsworldcongress.jp/index.html
会場	:10 月 14 日東京国際フォーラム 10 月 15-18 日東京ビッグサイト
主催	:日本組織委員会・東京都・ITS Japan
組織委員会委員長	:渡邉浩之(ITS Japan 会長)
副委員長	:猪瀬直樹(東京都知事)
世界会議理事会議長	:矢野厚(住友電工常務取締役)

日本で 3 回目、名古屋大会から 9 年振りの開催となった「第 20 回 ITS 世界会議東京 2013」は、期間中、台風の影響により一部中止を余儀なくされましたが、大会を通じて多くの来場者を集め成功裏に終了いたしました。会議テーマ"Open ITS to the NEXT"のもと 4 つの会議コンセプト"Open platforms、Open connectivity、Open opportunities、Open collaboration"を軸に展開し、産官学の専門家を中心とした参加者による活発な議論や情報交換および交流が行われました。また、後半の 17 日-18 日には一般市民にも公開し、展示、アトリウム企画イベント等に参加いただきました。

以下はイベントごとに実績ベースで振り返ります。

開催実績:(日本組織委員会 HP 公表値)

参加国	:65
会議参加/登録者	:3,940
会議・展示会参加者	:20,691
プレス	:494

東京ビッグサイト

1. 開会式:10 月 14 日(月)16:00-17:30、会場 : 東京国際フォーラム ホール A

渡邉組織委員長の開会挨拶に引き続き、安倍総理大臣から「ITS は政府の成長戦略にも盛り込まれている。」とのビデオメッセージが届けられ、日本の伝統的な“よさこい節”をベースとしたエンターテインメントを挟みながら進められました。

渡邉浩之組織委員長

安倍晋三総理大臣(ビデオ)

よさこい節

1)オープニングスピーチ

登壇者: 国家公安委員会委員長 古屋圭司 (日本政府代表)
東京都知事 猪瀬直樹(ビデオメッセージ)
ITS アジア太平洋事務局長 天野肇(アジア太平洋)
Econolite 社長/ITS America 会長 デビッド St アマント(米国)
ERTICO CEO ハーマン メイヤー(欧州)

古屋圭司
国家公安委員会委員長

猪瀬直樹
東京都知事

天野肇

David St. Amant

Hermann Meyer

2)表彰式:Hall of Fame, Industry Award, Local Government Award

ITS への永年の功績をたたえるため、第 17 回釜山 ITS 世界会議で創設され、今回で 4 回目になる Hall of Fame の表彰が行われました。また、本大会より新たに過去一年間に製品や活動を通じて ITS の発展に寄与した企業および自治体を讃える Industry Award と Local Government Award が新設されました。

Hall of Fame 受賞者

受賞者:

Hall of Fame

欧州　:　Dr. Risto Kulmala（フィンランド）（写真右から三人目）
Principal Advisor on ITS, Finnish Transport Agency - FTA

米国　:　Mr. Harry Voccola, NAVTEQ（米国）（代理者出席）

AP　:　Dr. Mao Chi-Kuo, Vice Premier of Executive Yuan（台湾）（代理者出席）

Industry Award

欧州　:　Civitronic（ルーマニア）,

米国　:　Econolite（米国）（代理者出席）

AP　:　Transport Certification Australia（TCA）（オーストラリア）

Local Government Award

欧州　:　Grand Lyon（フランス）,

米国　:　Oregon Department of Transportation,
Office Innovative Partnerships and Alternative Funding（USA）

AP　:　Seoul Metropolitan Government- TOPIS（韓国）（代理者出席）

2.プレナリセッション（Plenary Session: PL）　3 セッション

会場　:東京ビッグサイト国際会議場

政策立案者、企業のトップレベルの登壇者を招き、政策・戦略に関するハイレベルな論議を行う、3 つのプレナリセッションを企画しました。ただし、台風の影響で PL2 は中止となりました。

セッション風景（PL）

1）プレナリセッション 1:　10 月 15 日（火）9:00-10:30　　聴講者:約 580 人

タイトル:　Open ITS to the Next : Aims and issues in moving towards the next stage

モデレータ:　飯田　香織　NHK記者、「Biz＋サンデー」キャスター

登壇者:　日本　国土交通省　国総研高度情報化研究センター長　塚田幸広
インドネシア　運輸省　副大臣　バンバン　スサントノ
米国　カリフォルニア州 DOT ディレクター　マルコム　ドウアティ
欧州　欧州委員会　DG MOVE　総局次長代理　フォーティス　カラミトス

Bambang Susantono

Malcolm Dougherty

Fotis Karamitsos

塚田幸広

モデレータ
飯田香織

セッションのポイント：
今後の交通問題の解決にとって道路等のインフラ整備は重要だが、並行して ITS を導入することは必須になっている。むしろスマホの普及、コネクティッドビークルおよび自動運転の実現への期待も含め、ITS によるネットワーク化によって、道路等のインフラを最大限有効活用していく方向が望ましい。

2）プレナリセッション 2： 10 月 16 日（水） 9:00-10:30 （台風により中止）
タイトル： Improving Quality of Mobility in Mega-cities/regions
モデレータ： 福島 優子 Anchor, NHK “World Asia Biz Forecast“
登壇者： 中国 交通部 公路科学研究所 総工程師 王笑京
日本 東京都 都市整備局都市基盤部 西倉鉄也 部長
米国 ミシガン州運輸省 ディレクター カーク ステュードル
欧州 トルコ運輸省 戦略開発総局長 エロール ヤナール

3）プレナリセッション 3： 10 月 18 日（金） 14:00-15:00 聴講者：約 420 人
タイトル： Beyond ITS : from conventional approaches to four aspects of “open”
モデレータ： 山本ミッシェールのぞみ
Anchor and Reporter, NHK World TV and NHK World Radio
登壇者： 米国 ミシガン大学交通研究所（UMTRI） ディレクター ピーター スウェットマン
ドイツ HERE 社 シニアディレクター ブルーノ シモン
日本 ITS Japan 副会長/情報通信研究機構 理事長 坂内 正夫

Peter Sweatman

Bruno Simon

坂内正夫

モデレータ
山本ミッシェールのぞみ

セッションのポイント：
3 極代表者により ITS への期待、夢が語られた。米国からは、エコシステムとしてのコネクティッドビークル＆自動運転の実現への夢、欧州からは、ビジネスをおよびモビリティーの選択を変える位置情報付データの活用によるビッグデータへの期待が語られ、AP からは、新たな 4 つの ITS の“Open“の方向として、①災害から学んだレジリエンスへの貢献やスマートシティのエネルギー需給バランスに於ける EV の役割等から、より広い概念への拡大、すなわち、ハートフルで済みやすい社会への貢献。②実世界と IT 空間を融合し高度で効率的な社会を実現するサイバーフィジカルシステムの代表的成功例としてのサイバーワールドへの貢献。③技術や経験の調和といったグローバルに共通する問題の解決に向けた国際連携への貢献。④ITS にとっての夢として、自動運転、Wearable car、住みやすい社会（livable society）、やさしい社会（tender-hearted society）の実現。が上げられた。

3. セッションプログラム

プレナリセッションも含め 232 セッションが予定されましたが、台風の影響で 10 月 16 日（火）の午前中に予定された 22 セッション（PL：1、ES：1、SIS：6、HS：2、TS：11、IS：1）が中止となりました。

1）エクゼクティブセッション（Executive Session：ES） 12 セッション（ES4 が台風で中止）

エグゼクティブセッションでは、産官学の有識者が ITS の効果、問題、課題などを取り上げ、政策や戦略の議論を行ないました。以下は全セッションタイトルと日本のモデレータ、登壇者です。

セッション風景（ES）

- ES1 Autonomous Vehicles -- The Path to Implementation
  青木 啓二　　日本自動車研究所 主席研究員
- ES2 Connected Vehicles - Preparing for Deployment
- ES3 Deployment of Cooperative Safety and Energy Efficient Services
  井上 秀雄　　トヨタ自動車株式会社 主査
- ES4 International Cooperation - Acceleration for ITS Development and Deployment
  （台風により中止）
  奥村 康博　　国土交通省道路局 道路交通管理課 ITS 推進室長
  川嶋 弘尚　　慶応義塾大学 名誉教授 （モデレータ）
- ES5 Cooperative Strategies for Urban Traffic Management
  山本 和毅　　警察庁長官官房 参事官
  大口 敬　　東京大学 教授 （モデレータ）
- ES6 ITS Policy and Vision
  市川 類　内閣官房 IT 総合戦略室 参事官
- ES7 Emerging Business Opportunities for GNSS Technology
  小暮 聡　　宇宙航空研究開発機構 主任研究員 （モデレータ）
- ES8 Progressing Safety for All Users through ITS
  久保田 秀暢　　国土交通省自動車局 技術企画室長
- ES9 International Spectrum Allocation Policies
  森下 信　総務省総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室長
- ES10 ITS Enabling Next Generation Mobility
  大口 敬　　東京大学 教授
- ES11 The New Normal: the Integration of ITS with Other Technology Sectors
  吉田 健一郎　　経済産業省製造産業局 自動車課
  電池・次世代技術・ITS 推進室長
- ES12: Benefits and Returns on Investment for Real World ITS Applications

2）スペシャルインテレストセッション（Special Interest Session：SIS）

65 セッション（内 6 セッションが台風で中止）

スペシャルインテレストセッションは、各地域の専門家が研究、実用化段階の ITS に関する個別のテーマについて深く掘り下げ、最新の技術や施策を議論しました。以下は日本のオーガナイザーによる SIS のタイトルです（カッコ内は企画者）：

セッション風景（SIS）

- SIS01 Efficient and Effective Winter Road Management by Using ITS （国総研）
- SIS06 Spatio-Temporal Databases for Next-Generation ITS Applications （日本デジタル道路地図協会）
- SIS10 ITS Information for Transportation Support by Opening Public and Private Data （ITS Japan）
- SIS22 Cooperative Mobility Workshop （日産自動車株式会社）
- SIS23 Radiocommunication Technologies for Advanced ITS （総務省）
- SIS26 How Traffic Information Should be Collected and Provided when Disaster Occurs （VICS センター）
- SIS28 Emergency Medical Supporting System with the Use of eCall and AACN” （救急ヘリ病院ネットワーク）
- SIS33 Creation of the Next-Generation Car Society by Data Centric ITS （インターネット ITS 協議会）
- SIS42 Harmonization for Open ITS Communications Standards （社団法人情報通信技術委員会-TTC）
- SIS52 EU-Japan-US Trilateral Cooperation for Future R&D of Probe Data （国土交通省道路局）
- SIS56 Urgent Actions for Promotion of Video Drive Recorder to Reduce Traffic Accidents （UK コンサルティング）
- SIS57 Challenges in Increasing Safety and Quality Accountability under ISO26262 （株式会社ベリサーブ）
- SIS58 Web Technologies Change Car Life? （Web と車に関する検討会/慶応大学）

3）ホストセレクテッドセッション（Host Selected Session：HS）

18 セッション（内 2 セッションが台風で中止）

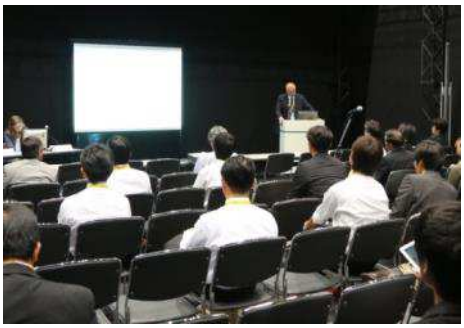
SIS に加えて、AP 地域の ITS の活動を特に選別し束ね、海外に向けた一層のアピールを目指した Host Selected Session（HS）を企画しました。

選定要件：1）host 地域である AP 地域のオーガナイズセッション
2）内容が主に AP 地域の活動を中心に据えているセッション

・ HS01 Education for next generation ITS in Asia （国土交通省道路局）
・ HS02 Pedestrian Detection in Various Manners III （東芝）
・ HS03 For the practical use of fully automated platoon system (on Energy ITS project) （経済産業省）
・ HS04 New services enabled by distributing the road related information （ITS Japan）
・ HS05 Next ITS for sustainable communities in rural cities （ITS Japan）
・ HS06 Electric Mobility and Smart Society （長崎県）
・ HS07 Realization and expectations of next generation VICS （VICS センター）
（台風により中止）
・ HS08 Toward Practical Implementation of Vehicle-Infrastructure Cooperation Systems for Safety （警察庁）
（台風により中止）
・ HS09 Future Mobilities Beyond 202X” （ITS Japan）
・ HS10 Automated Driving - Next Generation Vehicle-Highway System （国土交通省道路局）
・ HS11 Intelligent Guidance for Congestion Mitigation （東京大学）
・ HS12 Precise Positioning for ITS Application Using multi-GNSS （SPAC）
・ HS14 Toward Dependable ITS in an Enormous Disaster （東京大学）
・ HS15 Driving Behaviors of Elderly Drivers and their Safety Countermeasures II （高知工科大学）
・ HS16 Deliverables from ITS Asia-Pacific collaboration （ITS Asia Pacific）
・ HS17 Grass-roots ITS Promoted through Public, Private and Academia Partnership （高知工科大学）
・ HS18 Cooperative ITS for Now and the Next Round 2 （ITS Japan）
・ HS19 Data Integration Issues and Standardization-Creating Connected World around Vehicles （IBM）

4）テクニカル／サイエンティフィックセッション（Technical/Scientific Session：TS)
125 セッション（内 11 セッションが台風で中止）
インタラクティブセッション（Interactive Session：IS） 9 セッション（内 1 セッションが台風で中止）
論文は、研究開発、実用事例・政策紹介等のテクニカルペーパーと学術論文のサイエンティフィックペーパーとの 2 部門で募集され、専門家による査読を経て内容別にセッションに編成され発表されました。このうち、ポスター発表を希望した論文はインタラクティブセッションで発表されました。今回もショートプレゼンテーションに続いてポスター発表を行うスタイルが導入されました。なお、CD 予稿集に掲載されたのは 638 編でした。
サイエンティフィックペーパーのうち特に優れたものは下記学術論文誌に推奨されました。

- International Journal of Intelligent Transportation Systems Research (Springer)
- IET Intelligent Transport Systems (IET)
- Journal of Intelligent Transportation Systems (Taylor & Francis)

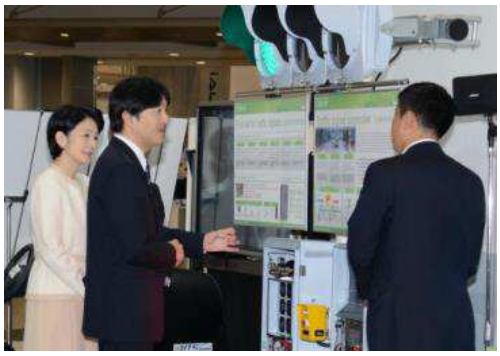


セッション風景（TS）

セッション風景（IS）

4. 展示会　：10 月 15 日（火）～10 月 18 日（金）

展示場のオープニングに先立って、秋篠宮文仁親王同妃両殿下にご高覧いただきました。



1）展示オープニングセレモニー（リボンカット）：10 月 15 日（火）11：15～11：30
会場：アトリウム

展示会場の開会リボンカットセレモニーには、欧・米・AP の 3 極よりゲストが招かれ、セレモニーに引き続いて、参加者は主催者による VIP 展示会場ツアーに案内されました。

リボンカット風景

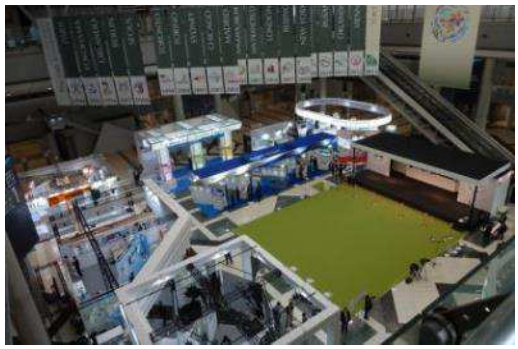
2）出展企業／団体

29 カ国（AP12、欧米 17）より 238（日本 114、海外 124（含 AP44））の企業/団体が出展し、当初予定の 700 小間を上回る 731 小間が展示会場全体を埋めつくしました。開催国である日本の企業/団体のみならず新規出展者も多く、今後の ITS 発展に伴うすそ野の拡大に繋がりました。会場は、中央部（アトリウム）の主催者企画エリアを一般出展者が周囲を囲む形で導線を確保し、大学ブースエリア、ショーケース PR エリアの他に参加者が自由に利用可能なビジネスマッチングエリアも設けられました。17 日、18 日を一般公開日としたこともあり、最終日まで多数の来場者により賑わいました。

3）主な展示内容

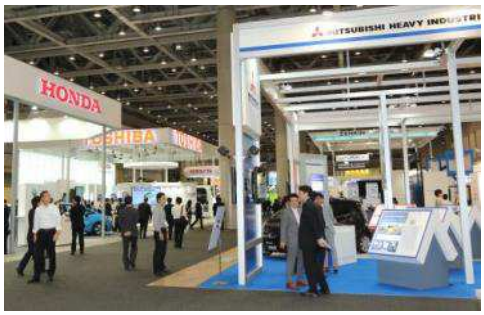
自動車メーカは、主に前車追突防止ブレーキシステム、レーン逸脱防止システム等従来から取り組んでいる安全運転支援技術、車車間協調システムによる追突防止システム、駐車支援システム等の自動運転の基盤となる技術をアピールしました。またその技術を支える、カメラ、レーザ、GPS、通信等の基盤技術が出展されました。車－ITS センター間通信を利用した震災対応システムの紹介もありました。また、EV を中心としたエネルギーマネージメント、路車間協調システムによる交通流制御システム、スマートフォンによるクラウドネットワークとスマートフォンを用いて、車－家あるいはドライバーに必要な情報を提供するシステムなども提案されました。また、大型ディスプレイ、体験型シミュレータ、体験可能なコックピットなどのデモンストレーションが多数準備され、一般の参加者を含めた来場者に、将来の ITS の実体験の機会を提供しました。

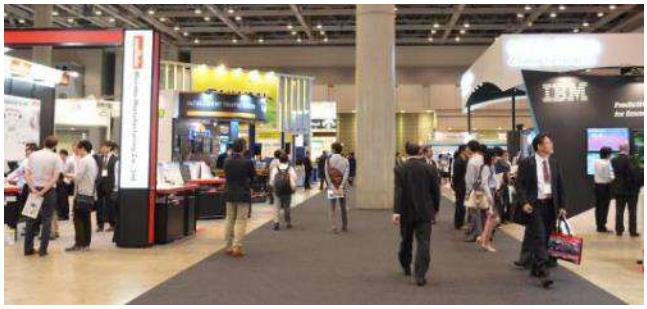
アトリウムでの展示スペースには、中央ステージを囲んで、ITS 関係省庁・自治体/ITS 推進協議会・東京都および欧・米・AP3極合同と ITS Japan がブースを配置し、主催者、関係省庁と民間企業が一体となった ITS 推進体制をアピールしました。



アトリウム展示風景

展示会場での主な模様を以下にまとめます：





市民公開日

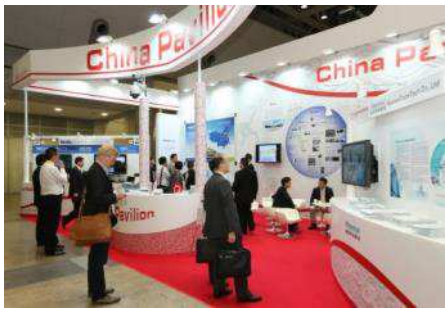
VIP 展示ツアー

猪瀬都知事視察

―アジア太平洋からの出展―

ITS Australia

ITS Korea



ITS 中国合同ブース

ITS 台湾合同ブース

ITS アジア太平洋ブース

米国合同ブース
(ITS America、ITS Canada 他)

欧州合同ブース
(ERTICO、EU 他)

東京都ブース

3極合同ブース
(ERTICO、ITS America、ITS Japan)

5. ショーケースデモンストレーション： 20

公道や会場施設にて、最新または未来のITS（実験段階のものやこれから実用化を目指すもの）

の見学や体験をしていただくショーケースデモンストレーションを実施しました。台風の影響で実施できないケースもありましたが、下記 4 つのカテゴリーで計 20 種類のデモが実施され、のべ 3600 人が参加しました。

・Safety and traffic management
・Next generation mobility and sustainability
・Personalized mobility services
・Resilient transport system for emergency situations

公道利用: 次世代協調型システム（ITS Green Safety）、
情報提供高度化（次世代VICS、震災時提供、クラウド連携、ITSスポット補完）、
高度運転支援、信号制御
会場施設: 屋外：自動運転、安全運転支援、災害時ネットワーク
屋上：駐車支援、スマートチャージング
屋内：歩行者ナビゲーション

6. テクニカルビジットとポストコングレスツアー:

1)テクニカルビジット: 9

台風の影響によるキャンセルにも見舞われましたが、運用中の最先端の ITS 施設を視察する 9 つのツアーが実施されました。

TV1 警視庁交通管制センターと東京都防災センター
TV2 「ゆりかもめ」中央指令室と公共交通乗車体験
TV3 臨海トンネル監視センターと大井コンテナターミナル
TV4 先進の交通管制センターと VICS
TV5 横浜みなと未来V2I ～交通管制センターの見学と路車協調システムの体験～
TV6 横浜スマートモビリティ
TV7 柏 ITS スマートシティ
TV8 Honda スマートホームシステムとソーラー水素ステーション
TV9 高速道路交通管制センターと保守運用設備

2)ポストコングレスツアー:5

中遠距離の ITS 視察を行う 5 つのツアーが開催期間の前後に実施されました。

PT1 あいち／豊田 ITS サムライツアー

PT2 長崎 EV&ITS ～エコアイランド五島へ～

PT3 新東名高速道路ツアー ～次世代高速道路～

PT5 広島における世界初の路面電車－自動車間通信型ASVデモ

PT6 エネルギーITS 自動運転隊列走行システム

注記)PT4 釜石市オンデマンド交通システムは最少催行人数に満たず中止

7. 主催者特別イベント:会場 :東京ビッグサイト アトリウム等

展示会場のアトリウムエリアでは主催者の企画による以下の特別イベントが開催されました。

1)ステージイベント

公開トークセッション

昨今注目を集める 2 つのテーマに焦点を当て、3 極の ITS リーダーによる公開トークセッションを開催しました。

テーマ 1:高度運転支援・自動運転 10 月 15 日(火)12:45～13:45 聴講者:約 580 名

モデレータ: 飯田香織, NHK記者、「Biz＋サンデー」キャスター

スピーカー:

米国 GM Electrical and Controls Systems Research Lab ディレクタ ジョン キャップ

米国 Ford アジアパシフィック サステナビリティ・環境・安全技術担当ディレクタ ピーター ハーディガン

スウェーデン Volvo グループトラックステクノロジー トランスポートソリューション＆サービス アドバンスドテクノロジー＆リサーチ 副社長 Jan Hellåker

ドイツ BMW グループ 自動車安全グループ 副社長 クラウス コンパス

日本 日産自動車株式会社 執行役員 中畔 邦雄

日本 トヨタ自動車株式会社 常務役員 Chief Safety Technology Officer 吉田 守孝

米国 ミシガン大学交通研究所 (UMTRI) ディレクター ピーター スウェットマン

共通する意見

- 安全・効率・利便の向上に大きく寄与することが期待され、研究開発～実用化の努力を続けてきている。

- 短期的には、運転支援システムを協調型システムと融合して、効果を顕在化し社会的受容性を築くことが重要である。
- 中期的には、ドライバーが運転に関与して責任を持つことを前提とし、走行環境として、駐車場のような閉鎖空間、高速道路のような進入が管理されている道路などを対象とするシステムから取り組む。
- いづれは機械主体の自律型自動運転が現実になるだろうが課題は多い。多くの技術要素やインフラシステムとの統合的アプローチや関係者間の連携をベースに、段階的製品化と社会的受容性の醸成の末に実現する。

個別の意見

- 課題の大きい安全よりも、まずは渋滞や駐車関連への適用から実用化する方がベター。
- 運行効率、省燃費、安全などの観点から運輸事業での受容性は大きい。

テーマ 2:ビッグデータ 10 月 16 日(水)12:45～13:45

聴講者:約 270 名

モデレータ: 関口 和一、日本経済新聞社論説委員

スピーカー:

ドイツ HERE 社 シニアディレクター ブルーノサイモン

スウェーデン Ericsson 社 リサーチエンジニア Julien Forgeat

オランダ IBM スマートトランスポーテーションリーダー エリックマーク ユイテマ

日本 本田技研工業株式会社 役員待遇参事 グローバルテレマティクス部部長 今井 武

日本 東北大学大学院 情報科学研究科教授 桑原 雅夫

共通する意見

- 路側センサーに加えて、移動体から膨大な移動データを入手することが可能になった。
- 個人向けサービスに加えて、公共サービスやインフラ整備の検討、企業の戦略検討や意思決定、緊急時や災害対応に有用。
- さらに Social media の分析や市民活動など主観的な情報も含まれる。密度、精度等の質をチェックし、総合的に分析することが重要。
- 官民のデータをオープンに相互利用可能な取引市場環境を作るべき。
- オープンな環境にとって標準化は重要である。単一のプラットフォームの構築よりも、情報流通手段の標準化が重要。
- セキュリティとプライバシーの確保は必須の要件である。

個別の意見

- 欧州ではデータのオープン化は、市場を通じて行われており大きな課題ではない。

ステージではその他にも、市民公開日(17-18 日)も踏まえ以下のイベントが開催されました:
（詳細は、後日、追加報告予定）

- CEATEC、東京モーターショーとの 3 イベント連携によるシンポジウム（テーマ1に統合）
- 東京都主催の市民向け公開トークセッション (市民公開日 17-18 日)
- 遠隔地デモンストレーションのライブ映像実況（エネルギーITS 自動運転隊列走行システム）

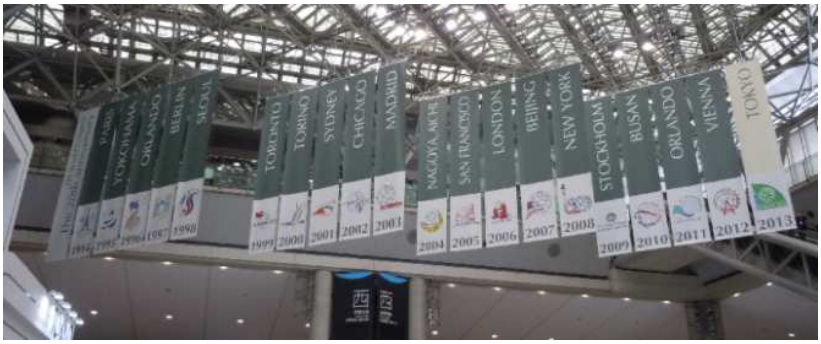
・各種団体による企画イベント

- ITS Japan 企画「ITS・お役立ちアプリ大集合」の実施（17 日）
- 国交省道路局、自動車局と読売新聞共同、総務省企画 トークセッション（16、17、18 日）
- 東京世界会議の実施映像ダイジェスト版放映（16 日～18 日）

2）展示イベント

ITS 世界会議 20 周年記念展示

- ITS 世界会議の歴史
- ITS の歩み: 世界の ITS の開発と実用化 20 年の歩み



第 1 回パリから第 20 回東京までの大会ロゴによる幟

ITS 世界会議の歴史

ITS の歩み

3）デモンストレーションイベント: 10 月 15 日（火）～10 月 19 日（日）
会場:青海地区西臨時駐車場（K 区画）

3 極連携による高度運転支援・自動運転のデモンストレーションが自動車メーカー11 社および産業技術総合研究所の参画を得て行われ、のべ 2700 人が試乗体験に参加しました。

8. スペシャルイベント

1）Gala ディナー：10 月 16 日（水） 19：30～22：00　会場：椿山荘 オリオン
（18：00～19：30 ウェルカムドリンク）

明治の元勲、山縣有朋の邸宅であった椿山荘において行われました。日本の太鼓や踊りのエンターテインメントのあと、参加者も“阿波踊り”に加わり良き交流の場となりました。

2）市民公開日：10 月 17 日（木）～10 月 18 日（金）

展示、ショーケース、アトリウムでの特別イベントは市民（海外含む）に無料で公開され、多くの来場を得ました。（7．1）の項目に記述。）

9. 閉会式：10 月 18 日（金）15：00～16：00

渡邉組織委員長の閉会挨拶、世界会議理事会の矢野議長による参加者実績等の報告に続けて以下が執り行われました。

渡邉組織委員長

矢野世界会議理事会議長

1）本大会の総括（Summary of WC2013）

欧州、米国、アジア太平洋との協力でまとめた、本大会の総括を`Snapshot`として国際プログラム委員会（IPC）の大口委員長が報告しました。

大口 IPC 委員長

総括のポイント:

1) 世界的にコネクティドビークルへの期待が高まり、最優先の取り組みとされてきている。すなわち、これまでの安全運転支援システムや協調システムの開発が、究極的に自動運転の実現へつながるという構想に、一般ユーザーを含めた多くの関係者の注目が集まっている。
2) ビッグデータすなわちリアルタイムのデータと様々な通信メディアやツールのインパクトが個人の交通モードの選択パターンに大きな影響を与えている。モビリティーの質向上にはビッグデータの適切な分析が不可欠であり、このために関係者の協同・連携がキーになる。また、これに伴い所有権等に関する議論がますます重要になりつつある。
3) 災害等の緊急時における適用が ITS の新たな重要な役割として、ますます認識されている。
4) ITS 産業の発展にとって、国際的な共通認識に立った強固な連携を図ることが最重要である。合わせて人材育成も含めたアカデミアの参画、普及に向けたユーザーの巻き込みが重要である。
5) AP 地域の各国がメガシティー化する際の交通問題の解決策の第一段階は現状把握であり、その解決ツールとして ITS が重要である。また、各国の考えやプラットフォームの共有化を図り、ITS の導入を進めることが重要である。
6) その他に、スマートシティ、物流を含めた都市交通ネットワークの観点等が論議された。

2)優秀論文表彰

引き続き、大口国際プログラム委員長より、受賞論文の表彰が行われました。

<u>サイエンティフィックペーパー</u>

Development of a Car-Following Tendency Prediction Method and Its Application to a Forward Collision Warning System

・Hirofumi Aoki, Osamu Ozaki, Toyota Motor Corporation, Japan

Improving Moving Jam Detection Performance with V2I Communication

・Bart B.D. Netten, Coen van Leeuwen, TNO, The Netherlands
・Andreas Hegyi, Bart van Arem, Meng Wang, Wouter Schakel, Yufei Yuan,
・Thomas Schreiter, Delft University of Technology, The Netherlands
・Tom Alkim, Rijkswaterstaat, The Netherlands

Dynamic Travel Time Prediction using Pattern Recognition

・Hao Chen, Hesham A. Rakha, Virginia Tech, USA
・Catherine C. McGhee, Virginia Center for Transportation Innovation & Research, USA

<u>テクニカルペーパー</u>

Using Traffic Information in Operations Analysis for Response of Emergency Services

・Mohit Sindhwani, Saurav Bhattacharyya,Quantum Inventions Pte Ltd, Singapore

Methodology and Framework Architecture for the Evaluation of Effects of ICT Measures on CO2 Emissions

・Eline Jonkers, Gerdien Klunder, TNO, The Netherlands
・Mohamed Mahmod, DLR, Germany
・Thomas Benz, PTV, Germany

Open Data as Enabler for ITS Factory

・Aki J. Lumiaho, Ramboll, Finland
・Mika Kulmala, City of Tampere, Finland

A Short Range Vehicle to Infrastructure System at Work Zones and Intersections

・Fengxiang Qiao, Jing Jia, Lei Yu, Texas Southern University, USA

サイエンティックペーパー受賞者

テクニカルペーパー受賞者

3）次回以降のITS世界会議の紹介

デトロイト（2014 年）、ボルドー（2015 年）、メルボルン（2016 年）の代表が、今後のそれぞれの大会への参加を呼びかけました。

デトロイト(2014 年)
James Barbaresso

ボルドー(2015 年)
Nathalie Delattre　André Reix

メルボルン(2016 年)
Brian Negus

4)パッシング・ザ・グローブ

恒例のセレモニーではシンボルの地球儀が、東京から次回開催地のデトロイト組織委員会に手渡されました。

5)エンディング

早稲田大学グリークラブによる歌で、大会の成功を祝すとともに、デトロイトでの再会を約束し閉会しました。

10. 関連活動・イベント

ITS 世界会議東京 2013 とは別に、世界会議開会の前に、各国の閣僚級を含むハイレベルの政策立案者等によるラウンドテーブル（High Level Policy Round Table）が東京国際フォーラム ホール D において行われました（10 月 14 日（月）13：30-15：00）。冒頭、古屋国家公安委員会委員長による開会挨拶に続き、各国出席者によるスピーチが行われました。10 か国より 22 名が出席し、オブザーバーは 16 ヵ国/地域より 33 名でした。日本からは野上浩太郎国土交通副大臣にご登壇スピーチを頂きました。出席者は、会議終了後、ITS 世界会議の開会式へ参加頂きました。

出席国：（アジア太平洋：AP）インド、インドネシア、タイ、ニュージーランド、日本
（米国）USA
（欧州）オーストリア、フィンランド、フランス、ベルギー

古屋圭司
国家公安委員会委員長

野上浩太郎
国土交通副大臣

会議風景

11. まとめ

“Open ITS to the Next ”をテーマとして開催された今回のITS世界会議では、特に自動運転とビッグデータに大きな注目が集まりました。自動運転については、完全自動運転の実現への期待が、セッションやデモンストレーションを通じて多くの参加者やマスコミの関心を集めました。ビッグデータについては、移動体や個人から発信された膨大なデータと、そこからどのような付加価値を見いだせるかに関し、あらたな業界の参画も含め様々な期待と課題が議論されました。また、例年に増してアジア太平洋地域からの参加者が集まり、アジア・太平洋地域の ITS 活動の発信とネットワーク形成の場となりました。まさに Open なプラットフォームの上に新興国や新たなアクターの参画等も含め、今後の ITS の方向性が垣間見えてきた大会でした。来年 2014 年 9 月 7 日（日）～11 日（木）に米国デトロイトにて開催される第 21 回 ITS 世界会議では “Reinventing Transportation in our Connected World” を会議テーマとして、自動運転やビッグデータに関するこれらの議論が引き継がれることになります。

以上